

伯耆町

平成27年7月発行 NO, 6



農業委員会だより



ヤギとふれあうふたば保育園児（岸本地内）

平成27年秋季農作業労働標準賃金協定表

秋季農作業労働標準賃金を次のとおり定めました。
これを目安として、お互いの話し合いにより取り決めを行ってください。

作業名		標準協定額	摘要	
一般農作業		6,900円	8時間労働賄いなし	
(男女共)				
耕うん	整備田	6,600円	10a当たり	状況の悪い所は、適宜加算する。
	未整備田	7,200円		
稲	バンダ刈	整備田 7,400円 未整備田 8,400円	"	紐代含む。 倒伏田・湿田等状況の悪い所は、話し合いにより適宜加算する。
	刈	コンバイン刈		
稲脱穀	ハーベスター	8,400円	"	倒伏田・湿田等状況の悪い所は、話し合いにより適宜加算する。
もみ運搬		6円	1kg当たり	
もみ摺り・乾燥		生刎水分量に関係なく 1,000円	摺り上がり玄米 30kg当たり	油代、袋代を含む。

(消費税込み)

伯耆町農業委員会先進地視察研修報告書

1. 視察研修の目的

わが国の農業情勢は転機を迎えています。

T P P問題は最終段階に、また、農協改革、米価の下落等不安材料が山積する中で、我が伯耆町では、近年鳥獣被害（特にイノシシの被害）が拡大しています。このような中で伯耆町農業委員会は、イノシシによる農作物の被害をなくすため献身的な対策を実施している先進地島根県を視察先に選択し、本町における有効且つ効率的な被害防除策をみいだす為、島根県を視察研修先に決定しました。

2. 研修期間及び研修視察先

研修期間 平成27年3月2日～3日

研修視察先 島根県雲南市、飯南町、美郷町

3. イノシシによる農作物被害とその対策

島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科

① イノシシによる農作物被害

島根県では、1970年代以降拡大し、1980年代半ばには島根半島を除く県全域でイノシシが生息する。これに伴い被害も急増拡大した。

島根県全体捕獲数 10,000頭／年 被害面積 30～35ha／年
また、被害発生時期は6月以前から被害があるものの8月初旬から9月初旬に集中している。

イノシシの生態に着目すると、5～6月はタケノコ等の繊維質、7～9月クズやセリ等の双子葉草木や稲、10～2月頃は根・塊茎及び堅果類を採食している。

② 基本的な被害対策

・ 進入防止柵の設置

設置や管理の方法を間違えなければ最も効果的な方法である。また、シカにも有効だが、その反面、設置に労力と資金が必要。

・ 個体数の管理

繁殖能力が高く捕獲しても生息数を少なくするのは困難。

狩猟期間に数多くイノシシが捕獲されるが浜田市の調査では、おおよそ60%以上が生きのびている。

・ 被害を受けない作物への転換

お茶、唐辛子、林地への転換

・ 被害がでる地域からの撤退

③ イノシシ被害対策の理想像

「進入防止柵の設置」をしっかりと行い、補助的に農地周辺で「個体数管理」を行う。

・ 視覚的遮断⇒耕作地がイノシシから見えないようにする。

・ 精神的遮断⇒警戒心が強いので進入防止柵の外側の草刈を行い、イノシシが接近しにくい環境を作る

④ イノシシの生態と被害防除のポイント

○ なぜ野生動物が出没するのか？

- ・鳥獣の数が増えた
- ・集落が鳥獣にとって条件の良い餌場になっている
(ヒコバエ、クズ野菜、果物、放棄果樹、生ゴミ、お供え物等)
- ・天敵(オオカミ)の絶滅

○ イノシシの生態

- ・臆病ゆえに慎重
- ・多子若年化 ⇒ 2歳から出産可能(平均4~5頭出産)
- ・植物食に偏った雑食性 ⇒ 行動範囲 1~4 km²
- ・忌避剤 ⇒ 木酢液、クオールト、パンキ、毛髪、猛獣の糞尿等は慣れてしまいい中長期的運用には向かない
- ・ラジオ、爆音器、点滅灯、犬等も自分に危害がないと学習すれば効果が無くなる

○ イノシシの進入等をどのように防ぐか？

- ・クズ野菜、生ゴミ、果物等による餌場をなくす
- ・効果的に田畑を囲う(柵、トタン等) ⇒ すき間をなくし維持管理
- ・わな等で捕獲
- ・嗜好性の低い農作物の利用 ⇒ コンニャク、ピーマン、トウガラシ、ショウガ、バジル、ゴボウ、白ネギ、ウコン、ニンニク、ハクサイ、シソ、オクラ等

4. ポイント

- ・一番効果があるのは人間の存在。
- ・ロケット花火等による徹底的な追い払いで農地や人が怖いと教え込む。



メッシュ柵
(サルの進入防止)



竹マルチ
(イノシシによるサツマイモの被害防止)

コーナー 「 頑張る農家さん 」

富江 森下 真次 さん

伯耆町富江の森下真次さんは、農学部を卒業後2年を経過したバリバリの農業後継者です。

今回は若手のホープ森下真次さんを「頑張る農家さん」として紹介します。

○森下さんのプロフィール

森下真次 24歳 伯耆町富江で生まれる。
倉吉農業高等学校、鳥取大学で7年間「農」について学ぶ。
卒業後、故郷（実家）で家族と一緒に農業を始める。

趣味 虫の観察
家族 5人
作付面積 白ネギ 85a
水稲 92a
JAへ主に出荷

○農業を始めたきっかけ

幼い頃からなりたかったのですが、はっきりとは覚えていませんが、父の代で農業を終わらせてしまうのが、至極残念な気がしたのがきっかけです。そして、農業をしたいと思い、高校や大学で農業、農学について勉強し、実際にいつか家業を継ごうと実家で農業を始めました。



○農業に対する今後の目標

- ・周年栽培の確立
積雪によって、冬は農閑期になる為。
- ・栽培技術の習得
親元で栽培技術・経営管理等を学び、家業を継げるよう頑張りたい。

私は、人としても農家としてもまだまだ青二才ですが、地域の発展、保全に少しでも貢献していけるように努力していきたいです。

農地パトロール

伯耆町農業委員会では、管内の農地の状況把握と農地法に基づく利用状況調査のため、農地パトロールを実施します。

目的

- ・農地の実態把握・有効利用から遊休農地の解消
- ・農地の違反転用の解消

時期

平成27年8月22日（土）

●広報編集委員 委員長 堀尾 祐史

委員 野坂賢一、池口真介、勝部 晴美、井上祥一郎、宮崎美知子
亀山英登、車 睦宏、小西憲昭

連絡先 62-0715（農業委員会事務局）